（様式1）

| 学校番号 | 71 | 学校名 | 茨城県立下館第二高等学校 |
|---|---|---|---|

# 令和8年度道徳教育全体計画

## 諸法規

・日本国憲法
・教育基本法
・学校教育法
・学習指導要領

## 校訓

（「校訓」はありません）

## 学校の教育目標

シン・館二スローガン『Start from Zero To One ～無から有の創造～』のもと、体力と気力に満ち情操豊かな人間力を備え、地域に貢献し地域を牽引できる「人財」を育成する。

## 生徒の実態

基本的な生活習慣が身に付いている生徒が大半である。生徒指導上の問題も少なく、学習や部活動をはじめ、生徒会活動やボランティア活動にも前向きに取り組む生徒が多い。また、生徒会行事は生徒が主体的に企画・運営し、各クラスの実行委員を中心に生徒一人一人が積極的に参加している。

## 保護者の願い

学力の向上と進路希望の実現はもとより、規範意識を高め、心豊かな人間性を培い、生きる力の向上を願っている。

## 道徳教育重点目標

①自己の尊厳を深く自覚するとともに、善悪を正しく判断し、自分の行動に責任を持てるよう「道徳」教育の充実を図る。
②“下館二高3Aプラン（Assess、Act、Achieve）自分を見つめ、行動を起こし、夢を達成する”の推進体制を整備し、進路について考察する学習活動を充実することにより、自己理解を深め「生きる力」の育成を目指す。

## 地域の実態

純朴で伝統を重んじる地域であり、伝統校である本校への関心や期待は高く、教育活動にも協力的である。

## 各教科・科目

| | |
|---|---|
| 国語 | 様々な文章を読み、話すこと・書くことを通して他人と価値を深め合いながら、心情を豊かにし、よりよい人間関係を図る。 |
| 地歴 | 日本を含めた世界の先人たちの歴史を学び、現在までの過程を知ることにより、将来あるべき人の生き方を考えさせる。 |
| 数学 | 数学の理論を学び、問題演習を行うことで、論理的な物の考え方を身に付けさせる。生徒の判断力を育成する。 |
| 理科 | 自然に対する関心や知識を高めるとともに、生命の大切さを学ばせる。 |
| 保体 | 健康や安全についての基礎知識を学ばせる。運動を通じて体力向上を図る。 |
| 芸術 | 芸術にふれることで豊かな情操を養い、心の安定を図る。 |
| 外国語 | 言語や文化への関心を深め、世界へ視野を広げ、異文化を理解し尊重する態度や積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。 |
| 家庭 | 家族や家庭、社会の意義を考えさせ理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させる。 |
| 情報 | 情報及び情報技術を活用させるための知識と情報化社会のものの見方や考え方を養う。 |
| 総合的な探究の時間 | 自己の在り方、生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成する。各自のキャリアプランニングを見据え、探究の意義や価値を理解し、自分で課題を立て、情報を集め、整理分析してまとめ・表現する力を養う。 |

## 特別活動

### ホームルーム活動

・自己の尊厳を深く自覚するとともに善悪を正しく判断し、自分の行動に責任を持てるようにする。
・他者の立場を考え、感謝と思いやりの心を持って人に接することができるようにする。
・自らの生命の大切さを深く自覚させるとともに、他の生命を尊重する態度を身に付けさせる。
・奉仕的精神を育成し、公徳を重んじた相互扶助による社会連帯の在り方を考えさせる。

・学校行事を通し、主体性と協調性を養い活力ある高校生活を送る。文化祭・体育祭は、生徒主体に企画運営を行う。
各種学校行事の意義を理解させ、全員参加を目指した指導を徹底する。学校行事を通して、クラスの連帯感を強め、生徒の協調性を養う。クリーン作戦を通して、奉仕活動を体験させ豊かな心を育成する。
・生徒会活動・部活動を通し、豊かで充実した学校生活を送る。
生徒会活動については、生徒主体による企画運営を行う。
生徒が部活動に積極的に参加できる環境をつくり、部活動加入指導を行う。目標を持ち、最後まで努力することにより、達成感を味わわせる。

## 公民科

### 公共

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。

現代社会の問題を掘り下げ、よりよい社会の実現を考えさせていく。また、人間としての在り方や生き方を考えさせ、国家や社会の一員としての自覚を持たせる。

## 生徒指導

・遅刻・早退・欠席の連絡の徹底
・制服の正しい着用
・あいさつの励行
・交通安全指導
（バイク実技講習・自転車ヘルメット着用の推進）
・薬物乱用防止教室
・無断アルバイトの禁止
・スマホ安全教室
・メディア教育

## 家庭との連携

・遅刻・早退・欠席等の連絡。
・生徒の問題行動や悩みを早期に担任を通して連絡し、学年・生徒指導部などとの連携を密にする。
・生徒の進路や日常生活について年に二度の三者面談を実施し、対面での相談の機会を設ける。
・授業参観や進路講演会等を通して学校に足を運んでいただき、情報提供を行う。
・学校評価アンケートにより、家庭の学校に対する考えや要望等を把握し、よりよい学校をつくるために協力をいただく。

## 地域社会との連携

・生徒会によるあいさつ運動。
・生徒指導部によるさわやかマナーアップキャンペーン運動。
・JRC部によるボランティア活動。
・各部活動による中学校や地域との交流。
・地域社会の行事等への積極的な参加。
・学校評議員からの助言や学校評価アンケートの結果を学校教育に生かす。